

中世の契約社会と文書

村石 正行 著

2013年1月刊行予定

▶ A5判・340頁／定価 7,875円(税5%込)

ISBN978-4-7842-1668-0

従来、中世の契約慣習のなかで債権者から渡され債務者の側に残る文書についての研究は等閑視されてきた。本書は売買・貸借などの契約関係を題材に、それに関わる契約者双方の文書作成のあり方を検証、「塵芥集」における法慣習なども援用しながら、双方向の文書授受とそれにまつわる文書作成が一般的におこなわれていた可能性を示す。

内容目次

序章 契約における文書作成—分析と課題— 本論文に関わる研究史／本書の視角

第一部 中世の契約と文書の作成

第一章 売買における双方向の契約文書

古代的売券から中世的売券への転換／「売券」を「買券」と称すること／売買契約の場における売主・買主／買主を主体とした文書作成

第二章 中世の借用と預状の作成

「預り状」と「預け状」／預け状の形態／預け状の作成

第三章 処分状の作成

処分状の形態／処分状と「書分」／権利証文の作成と書分

第二部 売寄進と同日付売券・寄進状の作成

第四章 売買契約と売寄進

売寄進状の実態／買得即時寄進型売寄進と「仲介者」／買得即時寄進型売寄進における買得と上分寄進

第五章 長楽寺復興運動と売寄進

長楽寺における土地売買契約文書／長楽寺の復興と売寄進

第六章 洞松寺文書にみる売寄進と在地社会

備中洞松寺と伝来文書／備中洞松寺文書における売寄進／毛利領国下の検地と打渡坪付／「洞松寺文書」にみえる庄氏

第三部 中世後期禅宗寺院における 文書目録作成と契約文書

第七章 中世後期曹洞宗寺院の地方伝播

信濃における禅宗史／十五世紀信濃国における曹洞宗の広がり／如仲天間とその法燈

第八章 中世後期地方曹洞宗寺院にみる

仏事興行と文書目録の作成

如仲天間の系譜／洞松寺文書中の「文書目録」／目録に見える追善のあり方

附 論 北高全祝と龍雲寺

戦国大名武田氏と曹洞宗寺院の統制／北高全祝法語と在地社会における曹洞宗の受容

第九章 中世後期臨済宗寺院にみる

土地集積と文書目録の作成

—「臨照山記録西岸寺規式」の文書目録を中心に—
臨済宗西岸寺の伝来史料／西岸寺と在地社会／寺院の土地集積と目録の作成／西岸寺文書目録の作成目的

終 章

契約と文書交換／寄進と売買契約としての売寄進／宗教文書にみる契約と信仰／中世の契約の双方向性—中世的文書主義との関わりから—

初出一覧／あとがき／索引・図版一覧

むらいし・まさゆき…1971年長野県生。1997年慶應義塾大学大学院文学研究科修士課程修了。長野県望月高等学校、長野県立歴史館専門主事・学芸員を経て現在長野県松本蟻ヶ崎高等学校教諭。博士（史学 慶應義塾大学）。【主要論文】「室町幕府奉行人諏訪氏の基礎的考察」（『長野県立歴史館研究紀要』2005年）、「諏訪社に残された足利義政の願文」（『年報三田中世史研究』2007年）、「治承寿永内乱期の木曾義仲・信濃武士と地域間ネットワーク」（『長野県立歴史館研究紀要』2010年）、「14世紀内乱期の守護所と善光寺周辺」（『善光寺の中世』2010年）、「鎌倉時代の『款状』とその機能」（『信濃』2012年）。

思文閣出版

〒605-0089 京都市東山区元町355 tel. 075-751-1781 fax. 075-752-0723
http://www.shibunkaku.co.jp E-mail: pub@shibunkaku.co.jp

注文票		発行：思文閣出版		(京都 取引コード 3402)	
冊数	冊	中世の契約社会と文書		本体7,500円(税別)	ISBN978-4-7842-1668-0
お名前		tel			
		e-mail			
ご住所	〒				
送本方法					
	☐ 書店経由（このちらしを書店にお渡し下さい）				
	☐ 代 引（書籍代+送料を現品と引き替えにお支払い）				
				本書HPのQRコード	書店番線印

東寺百合文書 【既刊10冊】

京都府立総合資料館編

東寺に襲蔵されてきた奈良時代から江戸時代初期まで約900年にわたる、総数18,000点・27,000通におよぶ日本最大の古文書群である国宝・東寺百合文書。本史料集には「ひらかな之部」刊行中の『大日本古文書』未収録の「カタカナ之部」を翻刻。(最終全60巻の予定)

- 第1巻(イ函・口函一) 490頁／定価9,975円 ISBN4-7842-1182-9
 第2巻(口函二) 446頁／定価9,975円 ISBN4-7842-1224-8
 第3巻(口函三) 444頁／定価9,975円 ISBN4-7842-1266-3
 第4巻(口函四・ハ函一) 454頁／定価9,975円 ISBN4-7842-1319-8
 第5巻(ハ函二) 454頁／定価9,975円 ISBN978-4-7842-1364-1
 第6巻(ハ函三・ニ函一) 432頁／定価9,975円 ISBN978-4-7842-1435-8
 第7巻(ニ函二) 450頁／定価9,975円 ISBN978-4-7842-1480-8
 第8巻(ニ函三、ホ函、ヘ函、ト函一) 442頁／定価9,975円 ISBN978-4-7842-1532-4
 第9巻(ト函二・チ函一) 446頁／定価9,975円 ISBN978-4-7842-1585-0
 第10巻(チ函二) 478頁／定価9,975円 ISBN978-4-7842-1657-4

禁裏・公家文庫研究 【既刊4冊】

田島公編

勅封のため全容が不明であった東山御文庫本など近世の禁裏文庫収蔵の写本や、交流がある公家の文庫収蔵本に関する論考・データベース・史料紹介を掲載

- ▶(一・二)B5判・各390頁／各定価10,290円 ISBN4-7842-1143-8・-1293-0
 (三) B5判・496頁／定価12,390円 ISBN978-4-7842-1414-3
 (四) B5判・404頁／定価9,660円 ISBN978-4-7842-1614-7

南都寺院文書の世界

勝山清次編

東大寺宝珠院(法華堂文書・宝珠院文書)と興福寺一乗院坊官二条家(一乗院文書・一乗院御用日記)に伝来した文書の3年間に渡る調査・研究の成果をまとめた一書。南都寺院の寺領やネットワークに関する研究をこれらの史料をもとに展開する。論考8篇と史料翻刻3篇収録。

- ▶A5判・350頁／定価6,090円 ISBN978-4-7842-1369-6

室町期東国社会と寺社造営

小森正明著

思文閣史学叢書

寺社の造営事業は、寺社を中心とする経済活動―寺社領経済―の発展に大きな効果をもたらした。本書は、鎌倉府体制下にあった室町期の東国社会に、寺社造営事業と寺社領経済が与えた影響を考察する。「香取文書」など中世東国の「売券」の長年にわたる分析に基づく成果。

- ▶A5判・356頁／定価7,350円 ISBN978-4-7842-1421-1

中世史料学叢論

藤本孝一著

京都文化博物館を経て文化庁主任文化財調査官を務め、永年史料学の現場で調査・研究に携わってきた著者の研究成果。古文書学を中心にしながら、平安時代の政治・社会・文化から、中世・近世の史料考証におよぶ論考には、著者の豊かな学識と経験に裏打ちされた学問世界が広がる。

- ▶A5判・444頁／定価9,450円 ISBN978-4-7842-1455-6

増補・改訂 南北朝期公武関係史の研究

森茂暁著

南北朝期の公家政局の構造、および朝廷と幕府との関係を、豊富な史料をあげて実証的に読み解き、その後の中世政治史の発展を決定づけた、1984年文献出版刊行の名著を増補・改訂して復刊。増補にあたっては、32頁に及ぶ新補注を付し、旧版刊行後に見いだされた基礎データ等を収録。

- ▶A5判・612頁／定価9,450円 ISBN978-4-7842-1416-7

*東寺・東寺文書の研究

上島有著

第21回角川源流賞受賞

近世文書や聖教類も含めた東寺文書の整理の歴史を、東寺と東寺文書の研究に永年携わってきた著者が、寺史や伝来とも関わらせて集大成。

【内容】東寺の歴史／東寺文書の伝来と現状／東寺百合文書の整理と目録作成／東寺文書をめぐって
 付：文書編年目録／索引

- ▶A5判・872頁／定価17,850円 ISBN4-7842-0979-4

*戦国大名武田氏の権力構造

丸島和洋著

戦国大名はどのような伝達ルートを通じて家中の内外との意思の疎通を行ったのか？甲斐武田氏を分析対象とし、家中を代表して他大名との外交を担った「取次」に着目。領国支配における意思伝達経路の検討とあわせて、大名権力の中核を構成する家臣や、大名と家臣の関係について見つめ直し、戦国大名の権力構造を明らかにする。

- ▶A5判・436頁／定価8,925円 ISBN978-4-7842-1553-9

*戦国大名武田氏の研究

思文閣史学叢書

笹本正治著

甲斐武田氏を素材にして、戦国時代の国境の在り方、棒道に代表される道の意味、国人領主を支配下に組み込む過程、さらに民衆の側から見た戦国大名、職人・商人の支配構造を明らかにしていく論考14篇。従来の研究に対し「あまりに武田氏の権力を大きく評価しすぎたのではないか」とする著者は、いくつかの問題を投げかけている。

- ▶A5判・440頁／定価8,190円 ISBN4-7842-0780-5

東寺文書と中世の諸相

東寺文書研究会編

日本の古文書を代表する史料群であり、中世の基本史料である東寺文書。そのうち東寺百合文書は1997年に国宝指定をうけている。本書は、東寺文書に魅せられた中世史研究者により、1994年以降続けられた東寺文書研究会での研究成果の第二弾。研究会の報告を基礎に最新の成果を披露した19篇。

- ▶A5判・654頁／定価11,550円 ISBN978-4-7842-1578-2

室町・戦国期研究を読みなおす

中世後期研究会編

踏まえる、拓く―若手研究者が提示する研究の過去・現在・未来
 【執筆著】松永和浩／桃崎有一郎／山田徹／吉田賢司／平出真宣／尾下成敏／西島太郎／清水克行／三枝暁子／早島大祐／高谷知佳／大田壮一郎／安藤弥

- ▶A5判・408頁／定価4,830円 ISBN978-4-7842-1371-9

神社継承の制度史

神社史料研究会叢書V

梶山林繼・宇野日出生編

神社・神道研究のみならず、地域史・政治史・社会経済史・文化史、さらに文学・芸能・音楽・民俗ほか幅広い分野の研究に資するという視点で神社史料の有効活用・研究の深化普及を目的として結成された神社史料研究会(代表・橋本政宣氏)の研究成果のシリーズ第5巻。

- ▶A5判・348頁／定価7,875円 ISBN978-4-7842-1418-1

鎌倉時代の権力と制度

上横手雅敬編

鎌倉時代史をリードしてきた編者と、次世代を担う関西の若手研究者により結成された鎌倉時代研究会の初の論集。「公家政権」「鎌倉幕府」「宗教と寺社」の3篇からなり、各分野のスペシャリストたちがそれぞれの視点から最新の研究成果を披露する。

- ▶A5判・358頁／定価6,825円 ISBN978-4-7842-1432-7

中世日本の政治と文化

思文閣史学叢書

森茂暁著

鎌倉時代から室町時代にかけて、現存している古文書や、政治と深く関わった宗教者から、「中世日本」とはどのような時代だったのかをひもとく、さらに『増鏡』や『太平記』、「博多日記」という記録史料など、文芸作品からのアプローチをも試みる。中世の政治と文化を総合的に明らかにした論考15篇を収録。

- ▶A5判・480頁／定価9,450円 ISBN978-4-7842-1324-4

東寺宝物の成立過程の研究

新見康子著

南北朝時代の寺誌である『東宝記』や東寺百合文書にみられる宝物目録などの豊富な史料をもとに東寺に残る文化財の伝来過程を具体的に体系化した一書。今後の文化財の活用や保存を前提に本来の保管形態を復元し、伝来を確定して位置付けをしなおす。

- カラー口絵4頁・本文挿入図版80点
 ▶A5判・638頁／定価12,600円 ISBN978-4-7842-1368-9

インタビュー・エッセイや新刊情報を掲載した広報誌『鴨東通信』を年4回無料でお送りしています。

電話・fax・Eメールでお申し込み下さい。※印の書籍は外函・カバーに汚れ・傷みがございます。